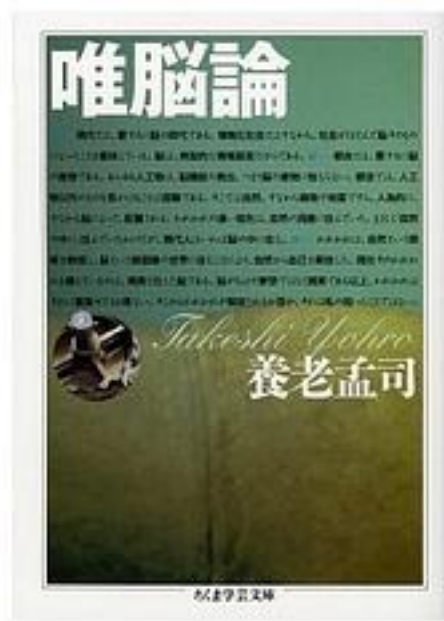


# 唯脳論



[唯脳論 下载链接1](#)

著者:養老孟司

出版者:ちくま学芸文庫

出版时间:1998-10

装帧:平装

isbn:9784480084392

文化や伝統、社会制度はもちろん、言語、意識、そして心…あらゆるヒトの営みは脳に由来する。「情報」を縁とし、おびただしい「人工物」に囲まれた現代人は、いわば脳の中に住む一脳の法則性という観点からヒトの活動を捉え直し、現代社会を「脳化社会」と喝破。さらに、脳化とともに抑圧されてきた身体、禁忌としての「脳の身体性」に説き及ぶ。発表されるや各界に波紋を投げ、一連の脳ブームの端緒を拓いたスリリングな論考。

作者介绍:

養老孟司

1937年、神奈川県鎌倉市に生まれる。1962年、東京大学医学部卒業。卒業後解剖学教室に入り、その後東京大学医学部教授。1995年、退官。東京大学名誉教授(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录:

[唯脳論\\_ダウンロード1](#)

标签

養老孟司

社会学

biology

Cognition

评论

意識と無意識

-----  
[唯脳論\\_ダウンロード1](#)

书评

-----

